

こくろう秋田

国鉄労働組合
秋田地方本部
(秋田市中通
7-2-21
018-832-3775)

発行責任者
瀬下 一司
編集責任者
佐藤 浩一

JR不採用から二十年

政治の責任で早期全面解決を！

JR不採用問題の早期解決を迫る秋田県集会を開催

11月3日、秋田市・国労会館において、国労秋田地本、建交労秋田県本部共催で「JR不採用事件の早期解決を迫る秋田県集会」

が開催された。(参加者は関係組合員、来賓等含め45名) 冒頭、主催者を代表して国労・瀬下委員長が「21年目に入った

新たな局面が生まれている。建交労はこの間トンネルじん肺訴訟において全県議会での意見書や全国会議員を対象にした署名運動を取り組んで成果を上げてきた。JR不採用事件もこうした教訓を生か

し、大衆運動を強化し、全力で闘いを進めよう」と挨拶があった。当事者からの訴えでは、音威子府闘争団の杉山さんが「20年が経過し、21年目の冬を迎える。昨年来から『4党合意』における不団結の力を乗り越え、4者4団体の団結で統一集会などが取り組まれていた。11・18札幌集

会があり、解決に向け行動を起こしていく。11・30集会の成功に全力を」と挨拶。全動労争議団の末田さんからは「全動労裁判は7月25日に結審し年末に判決が出る。勝利判決を求めて全力で闘いを進めている。皆さんの協力を」と訴えがあった。

来賓として秋田県平和労組会議仙葉事務局長、秋田県労連星野議長がそれぞれ激励と連帯の挨拶を行った。また、青森県中弘南黒地域労連の藤原議長から激励のメッセージが寄せられた。集会は、4日～5日の全県の宣伝行動と国労、建交労、県労連の3者による秋田労働局と秋田運輸支局に対する要請行動を確認し、「政府がJR不採用事件の早期解決を図るために関係当事者との解決交渉テーブル設置を図ることを強く求める」との内容の決議を採択し、団結がんばろうで閉会となった。

県南地域から宣伝行動を展開

翌4日、「JR採用差別事件の早期解決を求めるキャラバン行動」を行った。

9時、全動労争議団の末田さん、音威子府闘争団の杉山さん、建交労田中書記長と、横手地区協会向け出発した(地本から渡邊書記長、高橋・佐藤執行委員が参加)。「書記長が宣伝行動をする時はいつも大荒れ」と杉山さんに言われたが、快晴の中9時30分に到着。横手から久米・小林執行委員も合流し、第130回秋田県種苗交換会会場の湯沢市へ。

会場周辺は駐車不能で急遽雄物川河川敷の駐車場の河原で第一声。シャトルバス待ちの約300人の聴衆に向かって元気よく訴え。1時30分からは横手市サテイ前で宣伝、途中で58歳のリストラされた人からの生活相談を受ける。昼食後、13時から大仙市のスーパー前。

15時、秋田市のスーパー前で街宣していたら注目の的。16時、秋田駅前での街宣途中、元県労会議議長の藤村さんから「頑張れ!」氏は何とした? 氏は? と聞かれ「脱退して別の組合を作っていた」と応えたら、「20年間、国労はよく闘っている。応援するから頑張れ!」と激励の握手を2度3度受けるというハプニングもあった。

その後、独自行動に別れ、国労は3人で各政党(自民、公明、社民、共産)の他、9労組に対する物販、カンパ等の要請行動を行った。



JR不採用事件は、4党合意を巡る組織の不団結を解消し、4者4団体の団結を勝ち得た。12月には全動労裁判判決、3月には鉄道運輸機構裁判の判決という重要な局面に入っている。本部提起に

応え、1日も早い解決を求めて地方から全力で闘っていく」と挨拶。また、建交労県本部沼倉委員長から「4者4団体の団結が強化され、



功に全力を」と挨拶。全動労争議団の末田さんからは「全動労裁判は7月25日に結審し年末に判決が出る。勝利判決を求めて全力で闘いを進めている。皆さんの協力を」と訴えがあった。

